

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-14	中学校	音楽	一般	第1学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
27 教芸	音楽 727	中学生の音楽 1		

1. 編修の趣旨及び留意点

[編修の趣旨]

教育基本法の趣旨に則りつつ、学習指導要領音楽科に示された内容を無理なく習得することができるように、次の事項を編修の趣旨としました。

① 学習内容と手順が明確に分かる教科書

前半の歌唱、創作、鑑賞教材のセクションにおいては、全ての教材に学習目標を大きく示し、それに迫るための具体的な学習活動を、手順に沿って示しました。さらに、思考・判断を行うための指針となる問いかけを「吹き出し」の形で示し、学習の観点が明確になるように工夫しました。

② 主体性や創造性を育む学習に確実に取り組める教科書

生徒一人一人の主体性や創造性を育むうえで特に大切な「創作」の学習内容を吟味し、その学習に確実に取り組むことができるよう、ねらいや手順を明確に示しました。

③ 我が国や世界の音楽文化のよさを味わいながら豊かな心を育むことのできる教科書

我が国の音楽文化、また世界の音楽文化の特徴を感じ取ることを通して、それらのよさを味わうことができるようにしました。それによって、自国の音楽文化に誇りをもつと同時に、他国の音楽文化に対しても自国と同様に尊重する態度を養えるようにしました。

④ 小学校での学習内容を系統的に発展させることのできる教科書

小学校で学習する内容を踏まえて、それらを系統的に発展させて学習することができるような内容を含め、小学校とのスムーズな接続が可能になるように工夫しました。

【編修上の留意点】

より分かりやすく、学習がスムーズに進む教科書とすべく、次の点に留意しました。

① ユニバーサルデザインを目指した内容、デザインとする。

全ての生徒にとって、分かりやすく、取り組みやすい教科書となるよう、教材そのものの難易度や、文章の分かりやすさにいっそう配慮するとともに、重要な学習事項が優先的に目に入るような、シンプルなデザインとしました。また、色の見分けのつきにくい生徒にとって、学習上の支障が生じないよう、当事者チェックを受けています。

② 生徒の興味・関心を高め、学習意欲を喚起しやすい内容とする。

生徒の興味・関心を高め、学習の動機付けとなるような情報を含めることで、より主体的な学習ができるように工夫しました。

2. 編修の基本方針

教育基本法第2条に定められた教育の目標を踏まえ、音楽科における知識・理解を深め、思考力・判断力・表現力のバランスよい育成を図るために、次のような基本方針のもとに編修しました。

- 1 | 音楽科の学習を通して**知識・教養の確実な向上**を図ることができるよう、学習指導要領に示された「内容」や、「内容」に示された〔共通事項〕と緊密な関連をもった学習が確実に行われるようにしました。
- 2 | 「創作」の学習などを通して**個人の創造性を培う**とともに、グループ活動等によって**主体的に「協働」**しながら学習を進めることができるようにしました。
- 3 | **命の大切さを尊び、他を尊重する心を養う**ことができるような歌詞をもつ教材を多く取り入れました。
- 4 | **我が国や郷土を愛する心を育成**することができるように、我が国の伝統的な音楽や郷土の音楽を教材として扱いました。

3. 対照表

図書の内容・構成	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全般	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな音楽的感性や情操を育成することのできる教材を選択・配列しました。(第一号) 	p. 4～75, p. 80
歌唱教材	<ul style="list-style-type: none"> 英語の学習と関連付けられるように、英語で歌う教材を含めました。(第一号) 他を尊重したり、自然を愛する心を育てたりすることのできる教材や、道徳的観点と関連付けて取り上げられる教材を含めました。(第一号、第三号及び第四号) 我が国の民謡を歌唱教材として取り上げ、我が国の伝統的な歌唱の学習を確実に進められるように配慮しました。(第五号) 歌唱共通教材には「心の歌」という共通のロゴや「日本の歌の美しさを味わおう」という共通の学習目標を付し、世代を超えて親しみ、歌い継いでいくという趣旨を生かした学習が行われるようにしました。(第五号) 国歌「君が代」を開きやすい本文最終ページに、その意義も含めて掲載しました。(第五号) 	<p>p. 14 「Michael, Row The Boat Ashore」</p> <p>p. 4 「We'll Find The Way」 p. 22 「飛び出そう 未来へ」 p. 54 「夕焼小焼」 p. 56 「ふるさと」 p. 58 「Forever」 p. 62 「てのひら」 p. 64 「星座」 p. 66 「夢を追いかけて」 p. 68 「マイ バラード」など</p> <p>p. 46 「ソーラン節」</p> <p>「目次」 p. 16 「浜辺の歌」 p. 24 「赤とんぼ」</p> <p>p. 80 国歌「君が代」</p>
創作教材	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の創造性を育成するために、創作の学習目標と学習内容を明確に示しました。(第二号) 創作におけるグループ活動の中で、協力しながら学習を進められるような教材を含めました。(第三号) 	<p>p. 30 「Let's Create!」 p. 48 「My Melody」</p> <p>p. 30 「Let's Create!」</p>

鑑賞教材	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の伝統と文化を尊重する態度を育成するために、我が国の伝統的な音楽や郷土の音楽を、明確な学習の観点のもとに学習できるように示しました。(第五号) 他国を尊重する態度を育成するために、アジア地域の伝統的な音楽を教材として取り上げました。(第五号) 他国の音楽文化を学習する際にも、自国との関連が図れるように工夫しました。(第五号) 	<p>p. 40 箏曲「六段の調」 p. 42 尺八曲「巢鶴鈴慕」 p. 44 「日本の民謡」</p> <p>p. 50 「アジアの諸民族の音楽」</p> <p>p. 50, 51 吹き出し p. 34, 39 「この頃、日本では…!？」 (発展的な学習内容)</p>
その他の教材	<ul style="list-style-type: none"> 音符や休符、記号の名称や意味、簡単な音符や休符を使ったリズムの読み書きを確実に習得できるような教材を含めました。(第一号) 音階や階名について、体験的に学習することができる教材を含めました。(第一号) 	<p>p. 6 「BINGO GAME」 p. 7 「RHYTHM GAME」</p> <p>口絵 5 「音階と階名の秘密を探ろう！」</p>
口絵資料	<ul style="list-style-type: none"> 日本の各地で行われている音楽祭を紹介し、音楽との幅広い触れ合いを求める心を育成できるようにしました。(第一号) 日本の代表的な環境音を紹介することを通して、日本人特有の感性のよさに気づき、そのような環境を保全することの意義を考察できるようにしました。(第一号及び第四号) 我が国の伝統的な楽器やアジア地域の伝統的な楽器を関連付けて示し、それぞれの特徴を感じ取るとともに、相互のつながりを意識できる資料を掲載しました。(第五号) 	<p>口絵 1・2 「心ときめく音楽との出会い」</p> <p>口絵 3・4 「静けさと日本の音」</p> <p>口絵 7～9 「日本とアジアの楽器」</p>

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 我が国の音楽文化

我が国や郷土を愛する態度を育成できるように、我が国の音楽文化について取り上げる際には、その背景や、生活との関わりなども示しました。

▶ p. 40～47

② さまざまな場面で取り組める合唱曲

音楽を学校生活により生かすことができるように、巻末には行事等でも取り上げることのできる合唱曲を豊富に掲載しました。

▶ p. 54～75 「歌い継ごう 日本の歌」「心通う合唱」

③ 学習内容が一目で分かる「音楽学習 MAP」

学習指導要領に示された音楽科における学習内容と各教材との関連を「音楽学習 MAP」に明確に示し、学習指導要領の「内容」に準拠したバランスのよい学習が行われることを通して、音楽の基礎的な理解力や技能が確実に身に付けられるように配慮しました。

また、各教材と学習指導要領に示された〔共通事項〕との関連を、各教材の学習目標等に準じて「学習の窓口」として例示し、〔共通事項〕を支えとした学習が確実に行われるように配慮しました。

④ 学習目標や学習活動文とコラム「ここが分かれば Grade up!」

音楽についての基礎的な理解を促進するために、各教材には学習目標を明確に示すとともに、それに即した学習活動文や吹き出しによる問いかけなどを示しました。

また、教材によっては、「ここが分かれば Grade up!」というコラムを設け、〔共通事項〕と関連付けながら、より具体的な観点に基づいた学習ができるよう工夫しました。

▶ p. 12, p. 20・21, p. 28 「ここが分かれば Grade up!」

⑤ 発声や指揮に関するコラム「My Voice!」「指揮をしてみよう!」

音楽に関する基礎的な技能を養うことができるよう、歌唱の学習活動に必要な発声に関するコラム「My Voice!」を掲載しました。

また、合唱の学習活動に必要な指揮についても、「指揮をしてみよう!」というコラムを設け、分かりやすい図版を交えて解説しています。

▶ p. 8・9 「My Voice!」, p. 52・53 「指揮をしてみよう!」

編修趣意書

(学習指導要領との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-14	中学校	音楽	一般	第1学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
27 教芸	音楽 727	中学生の音楽 1		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①基礎的・基本的な知識・技能の習得への配慮

前半の歌唱，創作，鑑賞教材のセクションにおいては，全ての教材に学習目標を大きく示すとともに，それに迫るための具体的な学習活動を手順に沿って示し，基礎的・基本的な知識，技能を確実に習得できるように配慮しました。さらに，思考・判断を行うための指針となる問いかけを「吹き出し」の形で示し，学習の観点が明確になるように工夫しました。また，言語活動を促す文言を示し，生徒の表現力が育成されるように配慮しました。

②学習指導要領の「内容」及び〔共通事項〕との関連の明示

学習指導要領の「内容」に示された指導事項をバランスよく扱うことができるように，前半の歌唱，創作，鑑賞教材については，指導事項との関連を「音楽学習 MAP」に示しました。

また，〔共通事項〕との関連についても，「音楽学習 MAP」及び本文の学習目標の横に例示し，〔共通事項〕を支えとした学習を確実に行うことができるように配慮しました。

③道徳教育へのアプローチ

他の人々に対する思いやりの心を持ち，友情の尊さを理解するなど，道徳教育に資する歌詞をもつ歌唱教材を取り入れました。また，我が国の伝統的な音楽や長く歌い継がれてきた日本の歌の学習を通して，日本人としての自覚をもつことができるように内容を充実させました。

④変声期への配慮

変声について，正しい理解ができるようにするとともに，変声期に適切に対処することができるように配慮しました (p. 19)。

編修趣意書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-14	中学校	音 楽	一 般	第1学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
27 教芸	音楽 727	中学生の音楽 1		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項
口絵4	「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」 上の俳句は、江戸時代の俳人、松尾芭蕉が著した紀行文「おくのほそ道」の中の一句で、旅の途中に訪れた立石寺で詠まれたといわれています。この句の意味を調べて、芭蕉の気持ちを想像してみましょう。	2	第3 1 (4) 及び2 (7) イに関連して、自然音や音環境に関する日本人の伝統的な感性について考察する。
34	この頃、日本では...!?	2	第2〔第1学年〕2内容 B鑑賞(1)イに関連して、同時代の日本の歴史的事象を知る。
39	この頃、日本では...!?	2	第2〔第1学年〕2内容 B鑑賞(1)イに関連して、同時代の日本の歴史的事象を知る。

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数 3ページ)

(「類型」欄の分類について)

- 1 ...学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容(隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む)とされている内容
- 2 ...学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容